

令和 7 年度 第 2 回高士区地域協議会 次第

日時：令和 7 年 5 月 15 日（木）午後 6 時 30 分～

会場：高士地区公民館 大会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1)自主的な審議

自主的審議事項について

4 その他

(1) 次回開催日程について

・日時：令和 7 年 月 日（ ）午後 6 時 30 分～

・会場：高士地区公民館

(2) その他

5 閉会

[資料・配布物]

○当日 ・次第

・資料 1 分科会（子育て・教育、健康・福祉/農林（漁）、商工業・観光/防災・交通、健康・福祉）

・資料 2 高士区地域協議会分科会グループ

～ 地域協議会における会議の心得 5か条 ～

その 1 自分以外の人の考えも聞きましょう（自分ばかり話さない）

その 2 発言は簡潔にしましょう（だらだら話さない）

その 3 建設的な話し合いをしましょう（頭から否定しない）

その 4 話し合いやすい雰囲気を大切にしましょう（相手を責めない）

その 5 個人の意見は平等に扱いましょう（一人の強い意見に偏らない）

A 子育て・教育、健康・福祉

資料1-1

優先順位	○課題
	○人口減少 ・高士地区の人口減少が顕著であることを、地域全体で受け止め、今後の高士地区について考えるべき ・20～30代の女性が地域から出て戻らないことが大きな要因 ・市内（近隣地域）に若い世代が望む職種が少ない

	○子育て（保護者） ・中学校区が広く送迎が必要。中学校は17時迄しか滞在できないが、迎えに行けない。 ・保育園や小学校の統合も見据えた場合、送迎や制服などにかかる負担の発生が懸念される。 ・サポートしてくれる同居家族がいない子育て世代は、子育て相談（コミュニケーション）の場が必要。
--	--

	○教育（子ども） ・少子化ではあるが、地域で子供に向けた事業の開催や部活への参加、塾通いの機会を十分に与えるべき ・子どもの頃から高士の歴史や偉人について学び、誇りを持つべき
--	---

	○情報 ・福祉施設や介護サービスに関する情報が不足している ・各団体の活動状況等を知りたい ・どのように情報を入手してよいかわからない
--	--

	○コミュニティ ・高齢者が日常でコミュニケーションをとれる場が大切 ・住民同士の情報共有の場が少ない
--	--

	○（※防・交、健・福から）買い物支援 ・支援事業があっても利用者が少ない ・各種支援制度の情報が得られない
--	---

--	--

○団体へ確認したいこと	○候補団体等
・高士小の児童数の減少について、地域の人はどのように感じているのか	・町内会 ・高士地区振興協議会
・女性が住みやすくなる環境づくり ・子供はどのような地域であれば帰ってきたいと思えるか（地元に戻りたいと思える魅力とは何か） ・保護者は子供の定住についてどう考えるか	・住民
・U・I・Jターンの状況	・行政

・保育園や学校の登下校の送迎、制服購入などの保護者の負担感 ・進学や統合による新たな学校生活について不安なこと ・仕事と子育ての両立の工夫 ・保護者が周囲とコミュニケーションをとれる機会	・小中学校PTA（保護者）
・どのような公的支援があるか	・行政

・町内会の子供会の活動状況や開催回数 ・子供が参加できる行事や趣味、スポーツ ・イベント開催時の参加者数や案内方法	・子供会 ・町内会
・部活動の参加や塾での学習の必要性和機会の確保	・保護者
・郷土の歴史や偉人（川上善兵衛）に関して学ぶ機会	・小学校 ・公民館

・福祉施設や介護サービスの情報収集の手段 ・社会福祉協議会の取組内容 ・高士地区振興協議会の事業周知方法 ・高士区内の福祉活動団体（リスト）、活動内容	・社会福祉協議会 ・高士地区振興協議会
--	------------------------

・老人会のある町内はどのくらいか、どのような活動があるか ・老人会以外に高齢者がコミュニケーションをとる機会はあるか	・町内会
---	------

・高齢者のみ世帯での情報収集機能（LINE使用できる？）	
------------------------------	--

--	--

ここから



B 農林(漁)、商工業・観光

資料1-2

優先順位	○課題	○団体へ確認したいこと	○候補団体等						
	○高土区の農家の現状 (現状が不明なため先に団体へ確認)	→ ・米の価格の仕組みと今期の高騰の理由 ・専業農家をしている高土区の件（軒）数（耕作物別） ・農家自身が感じている課題と魅力 ・米のほかに作られている農作物 ・高土地区で法人、会社、個人で経営で農業を行っている割合 ・あるるん畑の活用状況 ・農作物のブランド化に関する考え	・生産組合 ・農家 ・ＪＡ						
	○農業者の減少 ・高齢化による後継者不足 ・若手の農業離れによる担い手不足 ・魅力を感じる農業の確立	→ ・農業後継者の育成や成り手、担い手確保 ・今後の高土地区の田んぼの状況、整地、AIや自動化など、スマート農業の導入状況 ・楽しく魅力ある農業ができるような発想 ・農業体験ツアーなどのイベントの実施状況	・行政 ・農家 ・生産組合 ・農家 ・ＪＡ						
	○ほ場整備 ・全体の2割の土地での畑作が必須	・どのような作物を作るべきか	・生産組合 ・農家 ・ＪＡ						
	○農業に関する公的支援、制度 ・制度が複雑で分かりづらい ・制度による制限が多い	・どのような助成制度があるか	・行政 ・生産組合 ・ＪＡ						
	○用水、鳥獣害対策 ・地域の水田が取水している用水について学ぶ ・櫛池川の辺りの雑草がひどく、野生動物もいるため危険	→ ・上江用水、坊ヶ池の用水、櫛池川など、高土地区に昔からある各用水路 ・環境整備や鳥獣による田畑への被害、影響	・関川水系土地改良区 ・用水組合						
	○観光 ・地域に観光の売りとなるようなものがない ・高土ルミネは事業規模を大きくしてきた半面、周知エリア、人手確保など今後の運営の課題も増えている	→ <table><tr><td>・岩の原葡萄園の取組状況</td><td>・岩の原葡萄園</td></tr><tr><td>・行政のバックアップ</td><td>・行政</td></tr><tr><td>・高土ルミネでの駐車場や宿泊施設の確保などの観光客を迎える体制</td><td>・実行委員会</td></tr></table>	・岩の原葡萄園の取組状況	・岩の原葡萄園	・行政のバックアップ	・行政	・高土ルミネでの駐車場や宿泊施設の確保などの観光客を迎える体制	・実行委員会	
・岩の原葡萄園の取組状況	・岩の原葡萄園								
・行政のバックアップ	・行政								
・高土ルミネでの駐車場や宿泊施設の確保などの観光客を迎える体制	・実行委員会								
		→							
		→							

ここから
←

C 防災・交通、健康・福祉

資料1-3

優先順位	○課題	→	○団体へ確認したいこと	○候補団体等
	○高齢者の避難対応 ・高齢者のみ世帯等、要支援者の避難支援について、「個人情報保護」の壁が高く、地域で助け合いたくても情報が得られない	→	・高齢者のみ世帯など連絡の取りづらい方の避難誘導 ・要支援者情報マップの周知状況 ・高齢者のみ世帯での情報収集機能（LINE使用できる？）	・高士地区住民福祉会 ・町内会 ・防災士会
	○災害対応 ・地震、津波で被災する可能性は低いが、山林火災の可能性はある ・地域で予定しているとおりに行動できない場合の対応 ・有線放送に代る情報発信機能がない	→	・近隣の山林の危険度や注意事項 ・避難場所へ実際移動できない場合の対応 ・リアルタイムの情報発信網	・町内会 ・防災防犯協会 ・高士分遣所
	○防災訓練 ・災害時の指揮系統が明確でない ・地域全体での防災訓練ができていない ・各町内会の防災組織が確立していない（代表者の交代など）	→	・仲間意識を深めるための顔合わせの機会の設定 ・各町内での防災訓練実施状況	・町内会 ・防災防犯協会 ・防災士会
	○公共交通サービス ・路線バスの減便 ・バス停までの距離が遠く、高齢者には使いづらい	→	・オンデマンドバスなど、公共交通機関のサービス状況 ・北陸新幹線と上沼道の商工業での活用方法→（※農・商・観へ）	・行政
	○道路の維持管理 ・地域の主要なライフラインである道路が狭い、除雪状況が悪いなど、危険と不便が伴う	→	・新井柿崎線の拡幅状況 ・道路除雪の改善	・行政
	○買い物支援→（※福祉へ） ・支援事業があっても利用者が少ない ・各種支援制度の情報が得られない	→	・高齢者のみ世帯での情報収集機能（LINE使用できる？）	
	○高齢者が不便だと思う事って何だろう？	→		
	○（※子・教、健・福から）高齢化 ・移動手段がない、作業が困難な高齢者のみ世帯の生活の見守りと支援が必要	→	※高齢者のみ世帯 ・買い物や通院等の移動手段はどのように確保しているか（支援があるか） ・除雪や灯油の給油など、体力を使う作業はどのようにしているか（支援があるか） ・見守りなどの取組や制度があるか	・高齢者のみ世帯 ・高士地区振興協議会 ・高士地区住民福祉会 ・町内会 ・行政
	○（※子・教、健・福から）健康 ・すこやかサロンの参加者が多い	→	・サロンの活動状況と参加状況、参加の基準（年齢など） ・現在の参加人数と、70～80歳代の参加割合 ・すこやかサロンや福祉施設の認知度	・セブンイレブン ・利用者
		→		・高士地区振興協議会

ここから